

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット1階)

事業所番号	2774001362		
法人名	有限会社 豊中オアシス		
事業所名	グループホーム 桜塚オアシス		
所在地	大阪府豊中市南桜塚4丁目11-4		
自己評価作成日	平成28年6月30日	評価結果市町村受理日	平成28年8月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪府中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階
訪問調査日	平成28年7月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域的にも服部緑地公園が近隣にあり、公園には古墳もあつたり、学校などもあるので、時間の許す限りで散歩や気分転換できるように対応する事を心がけています。閉じ込められ感が出るだけ少ないように、自分の時間で利用者様が生活して頂ける様日々努めています。今年もイベントには力を入れて行きたいと思います。地域の行事参加は勿論、お隣のGHと合同での夏祭りや外に出る機会をふやしていければと思います。可能な利用者様には何かしらの役割を持ってもらう事も続けていけたらと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して14年目を迎えるホームで、近くには服部緑地公園や学校、神社も多く環境は良い。当ホームのケア方針で重視しているのが「外出支援」と「職員および利用者の笑顔」となっており、酷暑や厳寒にはそれなりの装備や準備をして散歩を支援し、四季折々の季節感を感じ取って貰っている。この緑地校区には自治会や町会は組織されてなく、地域住民との交流には一時苦労されていたが、すぐ隣に同系列の「グループホーム豊中オアシス」があり、合同で納涼祭を開いて地域住民を招待する等努力されている。季節の良い春4月と秋10月には施設を挙げて行楽日を設け、マイクロバスで遠出をする等利用者を楽しませている。感情の起伏の激しい利用者も数名おられるが、職員の工夫で乗り切る努力をされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設独自の理念には「明るく楽しい生活環境」となっています。利用者様もそうですが職員も笑っていなければ、利用者様からの笑顔はないと思うので挨拶から笑顔が見られるそんな気持ちのいい施設だね。と言ってもらえるようにしたいと考えます。	開設当初より、当ホームの理念として「明るく楽しい生活環境」と共に「安心、快適、尊厳のある生活」「入居者に応じた自立支援」「家族と共に地域との関わりを大切にすること」を定め、職員はそれに沿ったケアを心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事を介護相談員さんや民生委員の方から教えて頂いているので、タイミングが合えば参加させてもらっています	地域の行事（盆踊り、敬老会、お年寄りを囲む会他）に参加したり、当ホームも隣のグループホーム豊中オアシスと合同で夏祭りを開き地域住民を招待している。ボランティアや地元中学生の職場体験も受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の交流を目指して行きたいと思えます。その為に地域の方たちとの繋がりを持つ事かと思えますのでお隣と合同での夏祭りを開催し、地域の方を招待したいと考えます		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議に参加してくれている方は色々な会議に出ている方も多いため色々な意見も頂けます。施設の会議での報告し、検討したりと幅を持つ事もできるようになりました	開催日を偶数月の第4水曜日と決め、行政からは地域包括支援センター、地域からは校区福祉委員に出席して頂き、ホームの現況を報告し、それについてのアドバイスを頂く等有意義な意見交換会となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施策課や支援課、福祉事務所の方には、分からない事は都度確認の連絡を取らせて頂いたりして、密に関係をもつよう心掛けています	市の高齢者支援課、高齢施策課および生活福祉課とは常に連携をとり、困りごとや分かり難い事例等の相談にのって貰っている。市の開く事業者連絡会や集団指導および研修会にも参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	原則的には身体拘束は行わないを明示しているので、センサーを導入し、利用者様がいつでも外に行きたいと言うサインが分かる様になっています。時間が許す限り都度、散歩等にも対応しています。気持ちで拘束も無くしていきたいと思います	開設当初から身体拘束の弊害についての内部および外部研修を受講し、職員はよく理解している。安全上玄関は施錠せざるを得ないが、外出や散歩を多くして閉塞感を与えないよう努力している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	現在虐待はありません。年間の予定の中に、職員全員の管理者との面談も入れ、半年ごとに変化がないかの確認を入れています。小さい目に気が付く事ができればと考えます		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人の方が1名おられるので、何かあればアドバイスして頂ける様にお話しています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様の都合に配慮し、優先して日時を設定し十分に納得の上で契約していただけるようにしています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族様からの意見箱も準備しているが、なかなか記入には至らないので、基本的には面会に来られた時に声を掛けさせていた だき、会話の中から意見を頂く事もある	利用者からは、コミュニケーションを密にして普段の会話からくみ取ったり、家族や介護相談員を通じて聞き出す工夫をしている。家族からは、「桜塚便り」を隔月に送ってメール等で意見をお聞きしている。来訪時や運営推進会議等でもお聞きしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月施設会議を開催し、行事から検討会議までを共有するように配慮しています。	職員が何でも言い易い雰囲気作りに努力しているが、毎月の施設会議で職員から意見や提案等を聞く機会を設けている。又、管理者による個別面談も年2回実施し、職員から意見や提案を聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々が遣り甲斐やスキルアップできるように、また研修会費も会社負担のものもあるので個人の負担は軽減できるようになったので、現場も色々と多様化していますが無理なく就業環境は出来てきているか と思います		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修であったり、施設内研修の充実、今後もどんな研修を受けたいかなども聞き取りしながら年間予定に添って行いたいと思います		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列会社のGHが近隣に2つあるので、今年も夏祭りの声掛けをしながら、交流をもち、研修会や意見の交換の場、防災訓練の合同開催もしていければと思います		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談やサービスの利用時の様子を見させて頂き、本人様の生活歴、趣味、生き甲斐等アセスメントし内容を十分理解し、共同生活が安心、安全に過ごせるように努めています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約、入居に至るまで、見学や相談等をさせて頂き、不安や要望について家族の意見を確認している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネ、相談員との情報交換を密にとり家族様本人様を含め今後の生活に対応し、話し合う時間をもつようにしています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	情報を共有し本人様を理解できるアセスメントは職員も参加し個別ケアが充実できるよう努めています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何かあれば電話連絡やメールやFAXの方とさまざまな対応をしています。情報も桜塚だよりも色々記載しているので、可能な限り対応しています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様の意向があって判断してもらっています。問題なければ個人的にたくさんの方が面会に来られる方もいます	利用者によってバラツキはあるが、友人・知人は比較的よく訪問してくれるので、面会を支援し楽しい時間を過ごして貰っている。年末にキーパーソンに賀状を出す支援もしている。馴染みの場所としては、美容院、公園、お店等があり、個別に散歩時に立ち寄ったりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性は大事なので色々と考慮した配置を工夫しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても家族様がお困りの時等があれば気軽に相談できるようにお話ししています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望、意向を話しやすい状態をつくり時間を取って話を聞く事によって把握に努めている。家族や関係者、職員の意見を聞き、本人の把握に努めている	入居者の思いや意向を把握するにはやはり人生歴や生活環境、楽しみごと、こだわりごとを知っておく必要があり、フェースシートにまとめ全員で共有している。入居後も何気ない会話や表情、仕草等で把握する努力をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様家族、その他関係者の方より生活歴や生活環境の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人と直接話す事によって心身の状況を確認したり、職員からの話、又は申し送りノート介護記録を確認する事によって現状把握につとめている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の状況や家族、職員から気付きや意見など、情報収集を行い、状況変化の時など、担当者会議を行い、その都度介護計画の見直し作成に努める	本人本位のケアプランを立てるためには、最初のフェースシートや家族の要望、かかりつけ医の診療情報等あらゆる情報を集め、ケアカンファレンスを開いて立てている。モニタリングは月1回、ケアプランの見直しは原則6ヶ月ごとに行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づいた点を個人の介護記録に記入し職員間で情報の共有し気付いた点を実践し、介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人家族の要望に応じ、美容院に行ったり、本人と一緒に商店街やダイエーに衣類等を買に行っている。地域のイベントに参加している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベントに参加、訪問介護相談員やボランティアの受け入れ等、地域の人の力を借りた取り組みをしています。(訪問美容院、往診、歯科訪問)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族様の意向に添いかかりつけの病院の継続、協力医療機関を受けて頂く場合は、本人様、家族様、の同意を得て内科医の往診を受けています	本人・家族が希望するかかりつけ医となっている。通院は家族同行となっているが、困難時は同行支援を行っている。協力医院の医師が毎日一人の往診、月2回看護師訪問、月2回歯科医の往診で、体調管理・変化に対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関から2週間に1回、訪問看護師が訪問しています。健康相談、置き薬の管理をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中には可能な限り面会に行き、本人の状態の把握に努めています。また家族様からも病院からの情報を頂ける様依頼しています。面会時には看護師や医療連携室の担当者とも話す機会を持ち早期退院に繋がるように努めています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	GHでのメリットやデメリットを正確に伝え、家族様には様子の報告を定期的に行い、可能な限りでの希望に添えるように対応している	「重度化した場合における指針」「緊急時の対応」の文書を入居時に説明し、同意書を交わしている。事業所の体制と力量を説明し、医療機関・家族と連携を図りながら、対応し得る最大限まで、支援に取り組み、終末期の看取りは医療機関に委ねている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変事、応急処置、救急要請、緊急時の対応については細かなマニュアルがあるので、定期的に見直しと情報の共有を徹底する		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施し、緊急時の避難経路の確認や整備を行っています	年2回、昼・夜間時を想定した自主訓練を実施している。消防署立会いを実施毎に依頼しているが、多忙の為実現していない。再度訓練の指導の申し入れし、内容の充実を目指している。地域の協力は民生委員の方に、見守りを依頼している。	築50年以上経過している構造上、非難経路・誘導の困難さを考慮して、あらゆる災害を想定した計画作成と、それに基づいた訓練の実施を行うと共に、消防署と連携を取りながら、地域住民の万全な協力体制の構築を期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を把握する事に努め個々の人格に配慮、プライバシーを尊重した声掛け、コミュニケーションを行っています	プライバシー確保が必要な排泄・入浴時は声掛けと誘導に配慮している。意向が表せる利用者には寄り添ってケアを行い、困難な人には表情や行動で汲み取るよう努めている。内部研修で一人ひとりの尊厳の大切さを認識している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から本人様より意向、思い等を聞き出し、周囲関係者は思いが叶うように可能な限り支援しています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活ペースに合わせ、これまでの生活環境や介護計画に添ったその人らしい生活ができるように支援しています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2カ月に1回美容師の訪問があり、カットや顔そり等、本人様の希望を伝えて行っている。毛染め家族様の意向も伺い必要であれば職員でも行っている。爪も伸びれば職員が切っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に盛り付けや後片付け、配膳、おやつと一緒に作っていただいたりできる範囲で参加して頂き楽しみをもっていただけの様支援している	事業母体のケイタリング社が、献立・調理・カロリー計算をした、真空調理の物を調理職員が温めている。週1回のおやつ作りやイベント・誕生会に好みを取り入れている。不穏行動者がある中で、雰囲気を楽しみながらの食事が難しく、場面づくりの工夫を模索中である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量を記録し個々の趣向を把握し個別対応ができるように工夫しています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを徹底し、各週火曜の訪問歯科医による口腔衛生管理を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し能力を活かし、その都度不快感がないように対応できるよう心掛けています	日中はパット・オムツ使用者は全体の1/5くらいで、パット類は本人に合わせている。夜間は半数がオムツ・パット使用となり、ポータブルの利用者もいる。身体機能に即したトイレ支援を心掛け、出来るだけトイレでの排泄を促す体制に、取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品等を提供しながらコントロールし困難な方については内科医や看護師に相談しながら服薬にて調整している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日を決めて行っているが利用者様の希望に添う様に配慮している。(温度、順番、一人の空間)など基本的には週2回入浴になっています	週2回の午後が原則だが、シャワー浴、足浴も随時行って、清潔保持に努めている。拒否の人には会話を交わしながら、衣類を脱いでもらい、その後は入浴を楽しむよう支援している。寛いだ雰囲気と変化を出す為、入浴剤を利用する場合もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	適度に日中運動を取り入れ、レクでカラオケ、DVD鑑賞、散歩、安心して生活しリラックスして眠れるよう支援しています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内科往診での薬の変更等については職員もわかる様に申し送りノートに張り出している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物、買い物、音楽、手芸、飾り付け作り等、利用者様にあった役割をと楽しみを職員と共にしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の行事にも参加したり、買い物や外出の機会を増やしていきたいと思います。誕生日には職員とマンツーマンで外食を希望されれば一緒に食べにいく事もしている	日常の外出は、近隣の住宅街・神社・公園に出かけている。ストレス発散、リハビリの一環、五感刺激のチャンスと捉え、積極的に外出を促している。春・秋にマイクロバスを利用して、遠出の特別な外出を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	カラの財布を預り、外出時には施設現金をその財布にいれて買い物をして楽しんでもらっています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様に入居時に確認させて頂き、本人様が連絡したいと言われた時には事前に家族様に連絡を取り、職員がサポートしながら電話や手紙のやり取りをしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂、廊下については季節感のある飾りを職員と利用者様と一緒に作っていただく。施設内はそんなに広くないので有効活用していければと思います	50数年経過の建築で制約が多いが、廊下・食堂兼リビング・浴室に夫々工夫をして、快適な生活になるよう努めている。廊下壁面に行事写真の掲示と、手作りの折り紙作品を飾り、生活感・季節感を味わえるよう整備している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂での時間の過ごし方が多いので相性を見たりしながら、廊下や屋根の下、玄関先など工夫して過ごしたいと思います		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の居室内は基本的には家族様の意向を受けています。馴染みの家具は安心にもつながるので本人様や家族様が安心してくつろげる空間を意識しています。	馴染みの物の持ち込みは、個々によって量の違いはあるが、各々快適に生活する場となるよう支援している。各居室内に洗面台があり、希望に応じて利用できる。ナースコール・スプリンクラー・見守りの為のセンサーを設置して安全確保に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	見守りで行ける場所を可能な限り対応し、手すりや机等をうまく活用している		